古墳時代の主な遺跡の分布

古墳時代の名取の様子

縄文時代の温暖化による海面上昇が終わり、丘陵の裾野まで侵入した海水も弥生時代にはかなり退きました。古墳時代が始まる頃には、海岸線が現在とほぼ同じ位置になり、名取平野が大きく広がりました。

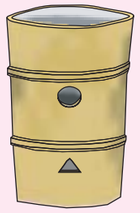
名取川の堆積作用により川沿いに発達した自然堤防や海岸線が後退していく過程で形成された浜堤と呼ばれる微高地上には、周辺の土地に比べ水はけが良いことから、徐々に集落が営まれていったようです。その微高地の周辺は、水はけの悪い湿地なので、水田として利用したのでしょう。

裾野に湿地がひかえる丘陵だけでなく、周辺に湿地の広がる自然堤防や浜堤は、稲作農耕中心の当時の人々にとって、理想的な土地であったに違いありません。

名取大塚山古墳

名取大塚山古墳の測量図

下増田飯塚古墳群の遠景



調査中の
塚根塚古墳の様子

塚根塚古墳の中から見つかった小古墳

小古墳の
埋葬施設の様子

現在の経の塚古墳の様子

経の塚古墳から出土した埴輪

（「宮城の遺芳」から転写）

鎧型埴輪

家型埴輪

調査中の
賽ノ窪古墳群 27 号墳

賽ノ窪古墳群 27 号墳
の横穴式石室の様子

27 号墳から
出土した土器